

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人ふれんど		
事業所名	グループホームのどか(1ユニット)		
所在地	苫小牧市明徳町4丁目4-17		
自己評価作成日	令和元 年11月25 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 3月 31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600933-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600933-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのどか1では、入居されている方の尊厳を守り、その人らしい生活を尊重することが基本となります。日常生活での潤いも大切です。これらのご実施するためには、まず、職員一人一人が理解し、資質を向上させて行く事が重要と考え、当法人及び、系列の医療法人とも連携し、職員の教育に力入れるようにしています。入居されている方に対しては、専門の講師による音楽療法を行い、日常生活に力を入れています。音楽療法の効果は大きく、楽しみに参加される方も多く、日常でも皆で歌う機会が増えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は道央自動車道苫小牧西ICに近い樽前山の麓に位置し、四季の移り変わりを満喫することが出来る。母体法人が運営する高齢者複合施設Ⅰ(ケアハウス、デイサービス、グループホーム、居宅介護支援事業所)の一角にあり、平屋建ての建物中央部は中庭になっており中庭を中心に各ユニットがある。居間、食堂、畳コーナーとそれぞれのスペースがあり、ゆったりと寛げる居場所が多い造りになっている。高齢者複合施設Ⅰにある各事業所とは廊下でつながっている為、散歩を兼ねて「ケアハウスはあーと」の5階に出向いて展望を楽しんでいる。高齢者複合施設の各事業所間で災害時の協力体制が取られ、発電機などを備蓄している。小学生高学年を対象に職員がキャラバンメイトとして授業に加わり、学んだ児童が交代で来訪して利用者との楽しい触れ合いに繋がっている。利用者は、広い敷地内を散歩したり、町内会の盆踊りや幼稚園の運動会等を観て、近隣住民と交流している。高齢者複合施設の夏祭りには地域住民も手伝いながら参加して交流を深めている。管理者・職員は、介護経験も長く、笑顔と思いやりで利用者に接し、利用者・家族に喜ばれる日常生活の支援に努めている。また、地域とのふれあいを大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフが相談し合い作り上げた物。実践に繋がられるように努力している。	管理者・職員で作りあげた地域密着型グループホームとしての「のどか理念」を掲げ、職員で共有している。理念を理解しながら、日常生活のケアに実践し、利用者のサービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・敬老会などの余興や実施する催しの手伝いを依頼し、交流している。	町内会に加入し、夏祭り、盆踊り、おみこし等で交流している。小学生がキッズサポーター養成講座に参加して、利用者と昔遊び等を行ったり、幼稚園児が敬老会に参加して踊りを踊ったりしながら交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近郊の小学5年生が来園し、レクなどで交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日々の生活の様子・状況等について話し、自己評価・外部評価についても報告しサービス向上に活かせられるように努力している。	年6回開催し、市介護福祉課職員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族、町内会長、民生委員、協力医療者等が参加している。運営状況、日々の活動、行事予定等の報告から意見や助言を得ながら利用者及び家族へのサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が毎回運営推進会議に参加され、事業所の様子を伝え、関係を築くようにしている。	職員が認知症サポーター養成講座の講師として小学校に出向いたりしている。また、社会福祉協議会のいきいきポイント事業にボランティアを受け入れたり、各種研修に参加したりしながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開錠されている。身体拘束禁止の行為は、スタッフ全員に周知され、研修を受講している。	高齢者虐待防止を含め3か月に一度身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の弊害や具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解したり外部研修に参加する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するファイルを設置し、スタッフ全員に周知。研修会に参加したり、施設内研修も行っている。		

グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人グループ内等での研修に参加している。必要時には関係者で話し合いの機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明・話し合いの場を設け、納得していただけるように努めている。医療機関とも連携を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情ボックスを設けている。面会時・行事の時など話し合いを行っている。	運営推進会議や家族の来所時に利用者・家族の意見・要望を聞く機会を設けている。家族からの要望等は記録に残し、ミーティング等で検討し運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや毎週の会議の中で聞く機会を設けている。	管理者は申し送りノートや業務日誌から、また毎月のミーティングや面談から職員の意見や要望を得て、運営に反映させている。リビングでの食卓の配置を変えたり、和室にソファを置き、利用者が畳敷きで過ごせるような配慮も提案から反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス研修・年1回の自己評価・人事考課制度を設け、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修の促し。経験に合わせた研修に参加できるように手配している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・協議会に出席し、他施設の方たちと話し合い、サービス向上に活かせるよう努めている。		

グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族・医療機関と面談を行い情報を受けている。入居時は本人と面談を行い、状況を把握するように心がけている。入居時は詳細に記録・アセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談でご家族が求めていること・希望されている事を確認し、説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を見極め、本人に合った支援を考えるように努めている。他部門への相談も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、ゆっくり過ごしたり、昔の歌を唄ったりゲームなどしたり、調理方法について教えてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の様子を伝え、お互いに相談しながら協力している。のどか便りでホームの生活の様子をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・馴染みの人がしばらく来れない時は、本人が電話をかけた時、行事のお誘いをして来ていただけるようにしている。	高齢者複合施設1の「ケアハウスはあーと」の利用者と馴染みの関係にあり、交流を続けている。家族の支援で、馴染みの美容室に行ったり、法事に出かけたりと馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のお互いの関係を知り、仲が良いもの同士近くで過ごせるようにしている。そうでない場合もお互い意識しなくて良いように、居場所の工夫をしている。		



グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでサービスを終了された方は、入院し死亡されたケース。ご家族には何かあればいつでも連絡くれるようにお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意志は日常の会話や関わりの中で感じ取り、スタッフ間で検討し、全員が把握している。	利用者との日常生活の会話、表情、仕草から思いや意向を把握して、申し送り、ミーティング、家族からの情報を共有している。利用者には、思いやりの心を持って接しケアプランにも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシートからの情報を活用。入居後の生活の中で本人との会話で情報を集め、ミーティング時や連絡ノートでスタッフに周知出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・個人記録・連絡ノート・個人ノート(病院受診・薬の変更など記入)などから把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者に日々の生活に関わってもらい、モニタリングを行いミーティング時に話し合い、その時に合った介護を行えるように努めている。面会時や中々来園できない場合は電話で日々の生活を伝えている。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・連絡ノートを使い、日々の様子・変化行動について情報交換し、見直しを行っている。ケアプランをユニットに置き、日中でも見れるようにし、意見や現在の状況をスタッフに書いてもらいミーティングで話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の記録を行い、連絡ノートを使用している。業務の中で気づいたことを伝達し、柔軟な介護をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	プランターで花や簡単な野菜づくりを行っている。天気の良い日は水をあげたり、実がなっていたら入居者様と収穫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重している。協力医療機関が系列法人のため、密接な連携を取っている。他医療機関とも情報交換を密に取っている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医の継続を支援している。受診は家族が同行するが、状況によっては職員が同行している。母体法人の系列医療法人より週1回の往診を受ける等、利用者の健康管理に努めている。かかりつけ医と協力医との連携にも努めている。	

グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には気づいたらすぐに連絡し、状態・受診についての相談を行っている。適切な支援が出来るよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は電話・面談などで連絡を取り情報交換をするよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やターミナルのあり方についても説明し、ホームで出来る事と出来ない事を話、同意を貰っている。	入居時に重度化・終末期について利用者・家族に説明し同意を得ている。看取りの経験があり、系列医療法人の医療機関と協力体制で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング・施設内研修などで定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回災害訓練を行い、入居者にも協力してもらっている。	年2回夜間想定を含めて災害避難訓練を実施している。高齢者複合施設は4事業所が廊下でつながっている為、災害時の協力体制にある。職員連絡網は確立しており、高齢者複合施設は避難場所にもなり、停電対応に発電機の設置や備蓄も対応している。	4事業所が廊下でつながっている高齢者複合施設は、災害の避難場所、停電や備蓄の役割はバックアップとして出来ているが、個々の事業所としての役割を担えるような備蓄や家族への連絡網など事業所としての災害時対応の見直しを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから言葉使い、対応にはお互い気づいた時に注意をし、ミーティング時にも話し合っている。	利用者は人生の先輩ということを尊重しながら、声掛けや言葉遣い、声の大きさや口調に配慮している。職員同士お互いに注意あって利用者の尊厳、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思、希望が意思決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、一人ひとりのペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方はスタッフが関わり、一緒に選んでいる。洗面なども声掛けが必要な方は見守りを行っている。		

グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切って頂いたり、調理を行っている。毎日の日課とし、茶碗洗いも行っている方もいる。	利用者の好みを把握して管理者・職員で献立を決め、必要食材を取り寄せたり、家族の差し入れ、収穫物で利用者と共に楽しい食事に努めている。誕生会、敬老会等の行事や外食レクで寿司、焼肉、蕎麦を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、食事・水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、汚れ・匂いを確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄を記入し、一人ひとりのパターンが把握でき、時間をみながらトイレの声かけ・誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、表情や仕草、タイミングをみて声かけしトイレ誘導を行い、自立排泄を支援している。また、失敗した場合でも利用者の羞恥心やプライドに配慮しながらトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	後遺症がある入居者様に合わせ、入居者様全員でリハビリ体操を行っている。1人でユニットまで散歩したりしている方もいる。時間をみて、ケアハウスまで散歩する様にしている。水分摂取は声掛けをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思、希望が意思決定できるよう努めている。希望を聞き、入浴できるようにしている。	午後の時間帯を中心に入浴支援をしているが、利用者の体調に合わせて午前中にも対応している。週2回は天然温泉での入浴を提供し、温泉気分を味わっている。入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室で皆とテレビを観たり、居室でテレビを観て過ごしたり、昼寝をする方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用について周知している。服用後の変化の確認、変化があった場合は看護師へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様全員で歌を歌ったり、ゲームをしたり、食事の準備や洗い物が好きな人、一人ひとりに合わせ支援を行っている。		

グループホームのどか(1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関は開錠し、スタッフと一緒に外に散歩したり、家族と外出する機会もある。	散歩に出かけたり、高齢者複合施設内の「ケアハウスはあーと」5階に出かけ展望を楽しんだりしている。花見や紅葉狩り、敬老会に出かけたり、寿司や焼肉、蕎麦を食べに出かけている。また、家族とドライブに出かける等の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お金を所持している。外出時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話が出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物(ちぎり絵・写真)花などを工夫し、利用者と一緒に作り、飾っている。また温度計を各部屋、リビングに置き調節を行っている。	広くゆったりとした共用空間のソファでは利用者が思いおもいに過ごしている。季節感ある飾りつけと、壁には写真や手作りカレンダー等が飾られている。また、畳敷きのエリアがあり、そこでは楽しくくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自テレビのある方は居室で過ごされたり、ない方はリビングで自由に過ごされ、居場所の工夫も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの物を持ってきていただいたり、ご家族の写真を貼っている方もいる。ホームで仲の良い方と写真を撮り、アルバムを作ったり、花を置いたりしている。	洗面台、クローゼット、暖房機、カーテン、照明が備え付けられ、床はクッション材になっており、転倒事故抑制として使用されている。馴染みの家具や仏壇等を持ち込み、家族の写真や孫の作品が飾られており、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースのほか、トイレ・居室に手すりがあり、広く介助しやすくなっている。必要・不必要な物については、その都度対応している。		